

第3回水と緑の森づくり会議（H28.2.10） 委員意見概要

○世良委員

- ・委員の皆さんのいろいろな意見を聴き、勉強になった。
- ・みーもスクールをしていると、刃物で木を削る、切ることを子どもたちがやりたがっていることが分かる
- ・みーもスクールなどの活動をぜひ継続して続けてほしい

○藤原委員

- ・委員の皆さんが和気あいあいとされている中に入れてよかった
- ・視察の際に、林業機械や若い林業家を現場で見て、林業の発展を実感した
- ・水と緑の森づくり税がいかに有効に使われているかが分かった
- ・今後も、行政に関わらない委員が森づくりの審査に参加することで、よりいろいろな意見が出ると思う

○村上委員

- ・「会社自治会行事として森づくり活動に参加したい人」が多い一方で、林業に関係しない企業の森づくり企画が少ない。企業のイメージアップにつながる仕掛けを具体化していけばいい流れができるのでは
- ・伐った木できのこを作るなど、体を動かしておいしいものを食べるようなイベントがあれば一般の人も森に入りやすくなる
- ・活動できるフィールドを企業などへ紹介し、社員がそこで体験活動できると面白い
- ・建築の仕事は用材を相手にしているが、木が育つ環境や作業の実態をみることはあまりなかった
- ・委員になったのを機に、建築用材と森をつなぎ後世に残していく木育などへの協力をしていきたい

○横山委員

- ・落葉樹の手入れがされず、常緑樹が増えたことで四季の風景が変わっている。針葉樹に隣接した有用広葉樹などをピックアップして再生の森事業で整備してはどうか
- ・昨年まで林業事業体に40年近く勤め、利益追求や経営をする立場にいたが、今年は各地域でボランティア活動が行われていることを知り大変ほっとした1年だった

○舟木委員

- ・若い世代は事業に関わっている人が少ない。キャラクター自身が情報発信すれば広がる可能性がある
- ・参加の仕方が分かれば、ボランティア活動に参加する人も増えるのではないか
- ・参加者のハードルを下げることも重要だが、森づくり活動の主催者自身がハードル

を下げて取り組みやすくすることも重要

- ・みーもくんグッズを作るのであれば小さい方がかわいい
- ・視察で森の中に入り、働く若者や機械を見て、林業のイメージが一変した
- ・林業の現場見学会をひらいたら、参加者はたくさん集まると思う
- ・島根の森のおもしろさや木材の良さを感じ、周りの人に話していこうと思った
- ・行政の補助なしで食べていける林業になるように、県でも取り組んでほしい

○大久保委員

- ・県民自身に水森税を払っているという認識がないため、水森税事業への賛成意見が多いような気がする。毎年500円引かれていることが納付書を見てパッとわかるようにしてはどうか
- ・昔はシイタケ栽培、今は林業経営をしていて、山や森で生きていくことの辛さを感じている。委員になり、子ども達へ森のすばらしさを伝えている人の活動を知り、自分も情報発信していきたいと思った
- ・匹見にはすばらしい山と昔ながらの架線集材があるのでぜひ視察に来てほしい

○鈴木委員

- ・若い世代へはイメージキャラクター以外の事業に対する認知度が低い
- ・みーもくんは女性に人気。Tシャツなどのグッズを売り出せば認知度も上がるのではどうか
- ・次世代への継承、県民活力、独自性があり問題解決できるかという3つの点で、森を育てることと人を育てることは共通している
- ・視察で行った高山小学校の、山を作るまでに要したエネルギーを思い、次世代へ継承していくための労働力や資金は水森事業に負うところが大きいと思った
- ・これからの水森事業も、子ども達の参加があり、離島や山間地で頑張っている子ども達への支援をする事業であることを望む